各 位 平成17年11月22日

会 社 名株式会社エス・サイエンス代表者名代表取締役社長 品田 守敏コード番号(5721 東・大証第1部)問合せ先常務取締役太田 洋三

TEL (03) 3216 - 6431

中間及び通期業績予想の修正に関するお知らせ

最近の業績の動向等を踏まえ、平成17年9月6日 (連結)及び平成17年7月28日 (個別)に公表した平成18年3月期 (平成17年4月1日~平成18年3月31日)中間期及び平成17年5月30日に発表した (連結・個別)通期の業績予想を下記のとおり修正いたしましたのでお知らせいたします。

記

1.平成18年3月期連結中間業績予想数値の修正(平成17年4月1日~平成17年9月30日)

(単位:百万円)

	売上高	経常利益	当期純利益
前回発表予想(A) (平成17年9月6日 発表)	4,170	280	400
今回修正予想(B)	3,928	24	52
増減額(B-A)	242	304	348
増減率 (%)	5.8	108.6	87.0
前期 (平成16年9月中間期)実績	1,386	379	387

2.平成18年3月期個別中間業績予想数値の修正(平成17年4月1日~平成17年9月30日)

(単位:百万円)

	売上高	経常利益	当期純利益
前回発表予想(A) (平成17年7月28日 発表)	2,500	250	300
今回修正予想(B)	2,428	86	137
増減額(B-A)	72	164	163
増減率 (%)	2.9	65.6	54.3
前期 (平成16年9月中間期)実績	1,386	272	229

3.平成18年3月期連結通期業績予想数値の修正(平成17年4月1日 ~ 平成18年3月31日)

(単位:百万円)

	売上高	経常利益	当期純利益
前回発表予想(A) (平成17年5月30日 発表)	8,510	240	235
今回修正予想(B)	7,779	111	12
増減額(B-A)	731	351	223
増減率 (%)	8.6	146.3	94.9
前期 (平成17年3月)実績	4,114	3,419	4,643

4.平成18年3月期個別通期業績予想数値の修正(平成17年4月1日~ 平成18年3月31日)

(単位:百万円)

	売上高	経常利益	当期純利益
前回発表予想(A) (平成17年5月30日 発表)	5,090	90	135
今回修正予想(B)	4,775	354	403
増減額(B-A)	315	264	268
増減率 (%)	6.2	293.3	198.5
前期 (平成17年3月)実績	3,169	2,024	3,229

5.修正の理由

中間期

(連結)

売上高は、当社及び子会社の売上減少により当初予想を下回り、連結での損益は関係会社である株式会社東理ホールディングスの好業績を取り込むことができましたが、教育関係の子会社において経常段階で大幅な損失計上となり結果として、経常損失は24百万円となりました。子会社の純利益につきまして盗難被害については、もっか調査中ですが2億55百万円及び減損会計適用に伴う特別損失等の計上がなされましたが、特別利益として2億59百万円の有価証券売却益等の計上並びに連結調整による期間損失の負担減があったものの、予想利益を下廻り当中間期純利益は52百万円の計上となりました。

ニッケル事業、不動産及び関連事業において増収となり、ディーゼル車の排ガス浄化装置に係わる試験研究費等が増えましたものの新規事業の売上増加による収益とリストラ効果もあって収益が大幅に改善され、2億39百万円の営業利益計上となりました。経常段階では子会社からの受取配当金1億21百万円については、その他資本剰余金の処分による配当を受けた場合は会計処理上収益として計上できず、又営業外費用としてLME価格下落に伴う棚卸し資産の評価減、増資関係費用等を計上したため86百万円の利益計上となり、又遊休設備である磁石製造装置の一部売却等により、当中間期純損益は予想数字を下廻りましたが1億37百万円の純利益を計上しました。

·通期

(連結)

売上高は、当社及び子会社の売上減少により当初予想を下回り、連結での損益は関係会社である株式会社東理ホールディングスの好業績を取り込むことができましたが、教育関係の子会社において経常段階では中間期の大幅な損失を補填出来ず結果として1億11百万円の経常損失となる予想で、当期純利益は連結調整による期間損失の負担減から12百万円の利益計上となる見込みです。
(個別)

環境事業及び特別事業において引き続き増収増益が見込めるため、売上高は当初予想を下廻りますが、経常利益及び当期純利益は予想数字を上方修正しました。

以上